

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
 発行人 角田 義行
 〒378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
 E-mail : tonekyou@pref.gunma.lg.jp

「これまでの教育実践の蓄積 × ICT」

利根教育事務所 管理主監 角田 巧

「ヒントは『資料箱』に用意してあるので、必要な人は各自の端末で情報を見てください。」

「気付いた点やアドバイスを『共有シート』に入力して物語の主題を話し合しましょう。」

今年度の学校訪問では、1人1台端末を使って個別にじっくり考えたり、作者の意図や表現の効果をグループで話し合っ読みを深めたりするなど、様々な教科の授業で、自校のICT環境を生かしながら学習形態を工夫する場面を参観させていただきました。

GIGAスクール構想は、「多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、子どもたち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する」という趣旨で、1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備した国の施策です。群馬県教育委員会では、「はばたく群馬の指導プランⅡ」ICT活用Versionで授業づくりについて具体的に示したり、指定校による授業をハイブリッド型(参集とオンライン)で公開したりするなど、「ICTを活用した群馬ならではの新しい学び」を推進し、GIGAスクール構想が着実に浸透するよう努めています。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行された後も、遠隔地の学校や施設とオンラインでつないで授業を行う「遠隔教育」が当たり前のように実践されるようになり、ICTの活用により授業が変わってきていることを実感しています。また、授業におけるICTの活用についても1人1台端末に慣れる段階から授業のねらいを達成するために効果的に活用する段階へと着実にステップアップしてきていることがうかがえます。

ここで、改めて、GIGAスクール構想で示された(a)の等式を考えてみたいと思います。

(a) **これまでの教育実践の蓄積** × ICT = 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

(b) **児童生徒の理解 × 教材解釈 × (個を伸ばす指導+集団を生かす学級経営)** × ICT

GIGAスクール構想でICT環境を整備する目的は、(a)の等式の右辺「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」です。一方、授業を構成する3要素(子ども、教材、教師)や、生徒指導提要で新たに示された「安全・安心な風土の醸成」に着目すると、(a)の等式の左辺は(b)の式に変形できると考えます。

ICTの活用により、今までできなかったことができるようになることもありますが、子どもの実態の的確な把握、教材への深い理解、個も集団も大切にしたい学習集団づくりというこれまでの教育実践で大切に蓄積してきたことも授業改善に欠かすことはできません。予測困難な時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を身に付けさせるために、教員自身も学びを止めない覚悟と努力、それに子どもはもちろん教員一人一人のよさや可能性を最大限に引き出す学校づくりを引き続きよろしくをお願いします。

学校教育係 令和5年度 指定事業の取組について

今年度、管内において指定事業に取り組み、多くの成果を上げていただきました。公開授業の様子を中心に取組について紹介しますので、ぜひ次年度の取組の参考にしてほしいと思います。

各教科等授業改善プロジェクトでは、各教科等の目標に迫る上で、児童生徒にどのような課題があるのか洗い出し、その解決のためのICTの効果的・効率的な活用を目指して授業改善を行いました。管内は理科の指定でしたが、その他の教科等においてもハイブリッド型の授業公開がなされ、多くの方にご参加いただきました。

指導主事

がん教育では、小・中・高の学校段階間の連携を図って生活習慣の改善を中心とした健康教育の充実を図りました。体力向上では、毎年管内の学校にお世話になっていますが、今年度は中学校の武道を中心に事業を推進しました。どちらの事業も学校全体での組織的・計画的な取組がポイントとなっています。

指導主事

指定を受けていただいた学校におかれましては、学校課題がある中、意欲的に取り組んでいただき、ありがとうございました。それぞれの学校が、指定事業を活用して学校の活性化を図ってくださり、カリキュラム・マネジメントの3つの側面を意識することが大切であると改めて感じました。

管理主監

※「発達障害のある児童生徒等に対する支援事業」、「非認知能力育成に向けたモデル校による実践研究」、「『チーム学校』に関わる事務職員特配」は次年度も継続して取り組んでいただく予定です。

各教科等授業改善プロジェクト授業改善推進校の取組について

今年度、利根管内では「理科」の指定を受け、沼田小と沼田南中に授業実践をしていただきました。「学校教育の指針の『授業改善のポイント』」や「本事業の目標」を基に、1年間かけて計画的・継続的に取り組み、大きな成果を上げていただきました。

<授業改善プロジェクト【理科】のポイント>

- ①日常生活や社会との関連を意識した単元構想
- ②科学的な根拠に基づいて多面的に考え、より妥当な考えをつくりだす場面の設定
- ③理科の目標に迫るICTの効果的・効率的な活用

沼田小 5年・単元名「流れる水の働きと土地の変化」

- ①児童が普段から目にしている川に着目できるようにし、単元の課題を「沼田市を流れる利根川が今のような様子になったのはどうしてだろうか。」と設定しました。
- ②公開した授業は、「流れる水の働きが大きくなるのは、どのようなときだろうか。」という問題について、水の量や流れの速さを条件として実験をし、侵食・運搬・堆積の様子から水の働きの大さきについて班や全体で考察させました。
- ③実際の授業では、児童は、前時の実験を撮影した画像を繰り返し見て、友達と議論しながらより妥当な考えをつくりだしていました。



沼田南中 3年・単元名「力学的エネルギー」

- ①簡易なエネルギー変換が分かる器具を作り、単元の課題を「身の回りの現象とエネルギーにはどのような関係があるか。」と設定しました。
- ②公開した授業は、「エネルギーを別のエネルギーに変換するとき、変換できるエネルギーの割合はどのくらいか。」という課題について、位置エネルギーが電気エネルギーに変換されるときの変換効率を調べる実験を行い、結果を一覧表示して割合が低い理由を考察させました。
- ③実際の授業では、表計算ソフトを活用して瞬時に変換効率を表示し、予想以上に変換効率が低いことに新たな疑問を抱かせました。生徒は、再実験や友達との議論によって、音や熱エネルギーにも変換されていることを見いだしていました。



◆理科を担当している教員の多くは、「児童生徒が、観察・実験を科学的に考察できていない」という課題を感じています。そこで、ICTを効果的に活用することによって、小学校では実験を何度も見直すことで事実を基にし、中学校では、効率的にデータ処理することでどの班も同じ結果であることを明確にして、実証性・再現性・客観性のある科学的な考察を例示することができました。各教科等の本質に関わる児童生徒の課題に対して、ICTの効果的・効率的な活用を今後も模索していくことが大切です。

がん教育総合支援事業の取組について

薄根小・薄根中の取組

薄根小では、道徳科や体育等の授業実践と、講演会や保健ミニ講話、児童の委員会活動などが行われました。公開した道徳科の授業では、主題名を「せいっぱい生きる」とし、「命のアサガオ」という資料を教材として、白血病を発症し7歳で亡くなった男の子とその母の心情を考えさせました。「がん教育プログラム」の授業やがん経験者の話も活用し、かけがえのない命について児童は深く考えることができました。

薄根中では、栄養教諭の話やがん予防の講演会と、保健体育や学級活動の授業とを関連させた取組が行われました。公開した学級活動の授業では、題材名「がんから自他の命を守るために自分にできることを考えよう」〈内容(2)〉とし、生活習慣を振り返る「キラリチェック」を活用し、がんにならないために自分ができ、自分が伝えられることをアドバイスするロールプレイングを取り入れ、がん予防の取組を意思決定することができました。

◆管理職のリーダーシップの下、保健主事や体育主任、養護教諭、生徒指導担当等、校内での連携を強化して共通理解を図るとともに、外部機関との連携も図り教科横断的な視点から年間指導計画等を見直すことができました。児童生徒の実態に基づいて組織的・計画的に健康教育を推進することにより、学校全体で取り組むよさが感じられました。

ぐんまの子どもの体力向上(武道)推進事業の取組について

昭和中の取組

「運動を楽しみ、主体的に取り組む生徒の育成 ～多様な武道指導の充実を通して～」のテーマの下、全学年で柔道と剣道、空手道の授業を行い、生徒は武道のよさや楽しさを味わい、伝統的な考え方や武道の精神を学びました。公開した剣道の授業では、剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方を理解させるために、木刀を使った「形」のポイントを示した「課題チェックシート」を活用し、話し合いやアドバイスを通して、課題を見付けたり、動きの改善を図ったりしました。

また、世界で活躍する講師を招いた「アスリート講話」では、講師から礼儀、目標設定、周囲への感謝、反省する心構えが大事であるという話をうかがいました。生徒たちは講話を真剣に聞き、自分自身を振り返ることができました。



◆多様な武道を経験することで、武道のよさに触れ、武道に共通する伝統的な考え方や相手を尊重する大切さについて学ぶことができました。学校課題に基づいた「体力向上プラン」を活用し、体育・保健体育の授業を中心に、他教科等の関連を図ったり、家庭や地域と連携したりする取組のよさを再認識することができました。